

○高萩小・中学校の目指す児童生徒像「ふるさとを愛し 生きていく力を育む 萩っ子」

○高萩小・中学校の目指す学校像「みんなで創る 笑顔あふれる おらが地域の学校」



はぎっこ

歴史と伝統のある日高市立高萩小学校

○学校教育目標

かしこく やさしく たくましく

令和8年6月30日第6号

児童数498名

「紫陽花（あじさい）の花に思うこと」

秋馬 信之

紫陽花（あじさい）はギラギラとした太陽の下よりも、しとしと降る雨に濡れた姿のほうが似合うものです。まさに梅雨時は紫陽花（あじさい）が美しく映える季節といえます。

ところで、紫陽花（あじさい）は「集真藍（あづさあい）」が語源と言われ、「あづ」は「小さいものが集まる」ことを表す語で、「さあい」は漢字で書くと「真藍」で「真っ青」の意味があり、すなわち紫陽花（あじさい）は「青い小花が集まって咲く」という意味になるそうです。実際には花に含まれる色素や土壌の成分によって、青や紫、そしてピンクなどに彩りを変え、私たちを楽しませてくれます。

先日、職員玄関近くに咲いていた紫陽花を、目を凝らしてみましたが、よく見ると小さい花がいくつも集まっているのに気づきました。

※この小さい花は、花ではなく「がく（装飾花）」というそうです。

この小さく見過ごしがちな小さい「がく」を、じっくり見ましたが、可憐でそれぞれ独立して立派でした。そして

「がく」が集まってできた「紫陽花（あじさい）」の大輪は、梅雨空に映え、その美しさを誇っているようでした。

さて、紫陽花（あじさい）の木を「高萩小学校」に例えると、紫陽花（あじさい）の大輪の花が「学級」であり、「学年」は、大小や色が微妙に違う紫陽花（あじさい）のいくつかの大輪の花。そして、「小さい装飾花」が萩っ子一人一人です。私は、梅雨空の下、紫陽花（あじさい）の花をじっくりと眺めてみました。あらためて萩っ子 500 人、一人一人が自分の花（小さい装飾花）を咲かせることで、学級や学年をつくり、高萩小という素敵な木を作り上げているのだと、つくづく思いました。

1 学期終了まで3週間となりました。子どもたち一人一人の伸びや成長は違いますが、朝の登校時の様子や、授業や掃除の取り組み方などをみても、多くの子どもたちから「前向き頑張ろうとする意思」が伝わってきます。先日の6年生の修学旅行においても、学年集団としての伸びを大いに感じました。もちろん、課題や改善しなければならない点がありますが、最高学年として自覚を感じ取ることができました。

7月に入り、1 学期の振り返りやまとめを、個人や学級、更には学年で実施しているかと思いますが、是非一人一人が謙虚な気持ちで振り返り、自分を見つめ直し2 学期への展望をもってほしいと思います。そして、一人一人の花がしおれることなく、無事1 学期を終えてほしいと願っています。



楽しかった宿泊学習と修学旅行

延期となった5年生の宿泊学習が6月16日（火）17日（水）、そして6年生の修学旅行が6月24日（水）25日（木）に行われました。

児童の皆さん・・・自宅を離れ、友達や先生方と寝食を共にする宿泊学習と修学旅行・・・普段の学校生活の中では得られない大自然の中で、五感を通じて「感じたこと」「気づいたこと」「分かったこと」「疑問に思ったこと」など、本当に多くの発見や学びがあったことでしょう。また、集団で長い時間を共に過ごすことで、友達との絆が深まるとともに、友達とのかかわり方や集団生活のありかた、さらには社会のルールやマナーも学ぶことができたことでしょう。

大切なことは、学んだことをこれからの学校生活に「どう生かしていくか」です・・・これで終わりではありません。これからが大切なのです・・・。

これをきっかけに、集団としてのさらなる向上、飛躍を期待しています。

5年生は自然豊かな飯能市にある「名栗げんきプラザ」に行ってきました。班で協力して作ったカラーライスや、地図を見ながらポイントを回った森のQ太郎ゲーム、また夜のキャンプファイヤーなど、たくさんの思い出ができました。



6年生は「日光方面」に行ってきました。徳川家康を祀る、ユネスコ世界遺産に登録されている日光東照宮、落差 76 メートルの華嚴の滝、時代劇の世界に迷い込んだような町並みの日光江戸村など、自然や文化を学ぶとともに、エンタメも存分に満喫でき、たくさんの思い出ができました。

